

水害を迎え撃とう

今年も梅雨のシーズンがやってきました。水害についての正しい知識を習得し、水害に対して受身にならないように、迎え撃つ気持ちで対策を立てましょう。

水害の種類

①洪水害

大雨によって河川の流量が異常に増加して起こる災害。一般に洪水といい、堤防の決壊や河川の水が堤防を越えて起こる氾濫をいいます。また、外水氾濫ともいいます。松前町では、重信川沿いの地域などで十分な注意が必要です。

③土砂災害

がけ崩れ、土石流、地すべりの3つをいいます。松前町には土砂災害による危険箇所はありませんが、アスファルト下の土砂の洗掘による沈下など、日常では考えられない被害が発生する可能性があるため注意しましょう。

②浸水害

大雨に排水が追いつかず、下水溝、用水溝などがあふれたり、河川の増水や高潮によって排水が阻まれたりして起こる災害。内水氾濫ともいいます。これは松前町内全域で注意が必要です。特に海岸地域の海抜ゼロメートル地域では、高潮による浸水の被害が予想されるため、十分な注意が必要です。



水害対策

ハード面の対策

○家の周りの危険確認

雨どいや家の周りの排水溝にゴミなどが堆積していませんか？ 早めに取り除いて流れを良くしておきましょう。

○事前の土のう備蓄

過去に浸水した箇所や浸水が予想される箇所土のうを備蓄し、増水時、素早く土のうを積み上げる準備をしておくのも有効です。

その他、台風接近時には窓やテレビアンテナの補強を施したり、流れ出すと危険な木材などの固定、有害物質を発生させる恐れのある電池を高い所に保管するなど、あらゆる状況を想定して対策を立てましょう。

ソフト面の対策

○緊急持ち出し品

飲料水、食料、衣類その他生活必需品を準備しましょう。これは、様々な災害で活躍します。また、家族の中で持ち出しの役割分担を決めておく効果的です。緊急持ち出し品については5月号に掲載しています。

○気象情報のチェック

台風が接近したり、大雨が降りはじめたら、テレビやラジオにより、最新の気象状況を把握しましょう。

○避難場所・避難方法の確認

最寄りの指定避難場所を把握し、安全な経路を複数確認しておきましょう。雨で増水した小川や側溝、マンホールは境界が見えにくくなり、転落事故の可能性があります。危険な場所には近づかないようにしましょう。

また、水の中の歩行は深さが20cmになっただけで子どもやお年寄りは歩行が困難になり、大人でも50〜70cmになると歩けなくなるなど、予想以上に困難で、普段の3〜4倍の体力を消耗するといわれています。

危険を感じたり、防災機関から指示があったら速やかに避難しましょう。避難のタイミングを逃すことのないよう、必ず早めの避難を心がけましょう。

○地域における連携

地域での連携を深めるよう、平素から心がけ、有事の際には協力しあう体制を整えましょう。

う。特にご近所に一人暮らしのお年寄りや、寝たきりの方、外国人の方などがいる場合、地域の皆さんで連携して助け合うことが理想です。

毎年、全国各地で集中豪雨や台風による被害が発生しています。皆さん一人ひとりの災害に対する心がけが被害軽減のために必要です。

しかし、被害を最小限におさえ、効果的な災害活動を行うためには、各人がバラバラに行動しては効果があまり期待できません。地域住民が組織的に行動することによって、その効果が最大限に発揮できるのです。

水害を始めたときの災害について考えるとき、皆さんの家庭を最小の単位とした、地域住民同士のつながりが必要不可欠なのです。

